

人も犬も 笑顔で暮らすために



放し飼い・フン尿の放置・鳴き声は迷惑です

「苦情を言われていない＝迷惑をかけていない」とは限りません。近所付き合いの遠慮から言いにくい場合もあるため、飼い主の方から積極的に気を配ることが求められています。

犬の飼い方について



放し飼いは厳禁

外出の際は必ずリードをつけて

おとなしい犬でもリードが必要。逃げ出さないように気をつけて。

- ①犬の行動を制限できる人がリードを持つ
- ②適正な首輪のサイズ、リードの長さ

※外で飼う場合は敷地から出ないように、塀や柵等で囲われた場所で飼うか、くさり等でしっかり繋ぎましょう。

フン尿の始末

フンは必ず持ち帰って

フンを持ち帰ることは飼い主の常識。尿も水で洗い流したり、屋外でもペットシートを敷いてさせるなどの配慮が求められています。

散歩は排せつのためではなくて、運動のため。今どきは、家で排せつを済ませてから散歩に行くことが推奨されています。

鳴き声に配慮

近所迷惑にならないように

かつては番犬として褒められた鳴き声は、今や「騒音」に。吠えさせないしつけが求められています。鳴く理由を見極めて、原因から対処を。

- ①飼育環境の見直し
- ②ドッグトレーナーや獣医師などの専門家に相談

最期の時まで責任を持って

犬の寿命は約15年。人生の転機が訪れても、飼い続けることができるかよく考えましょう。

もしも飼育できなくなった場合は、飼い主の責任で新しい飼い主を見つけましょう。

愛情はたっぷり
責任はしっかり